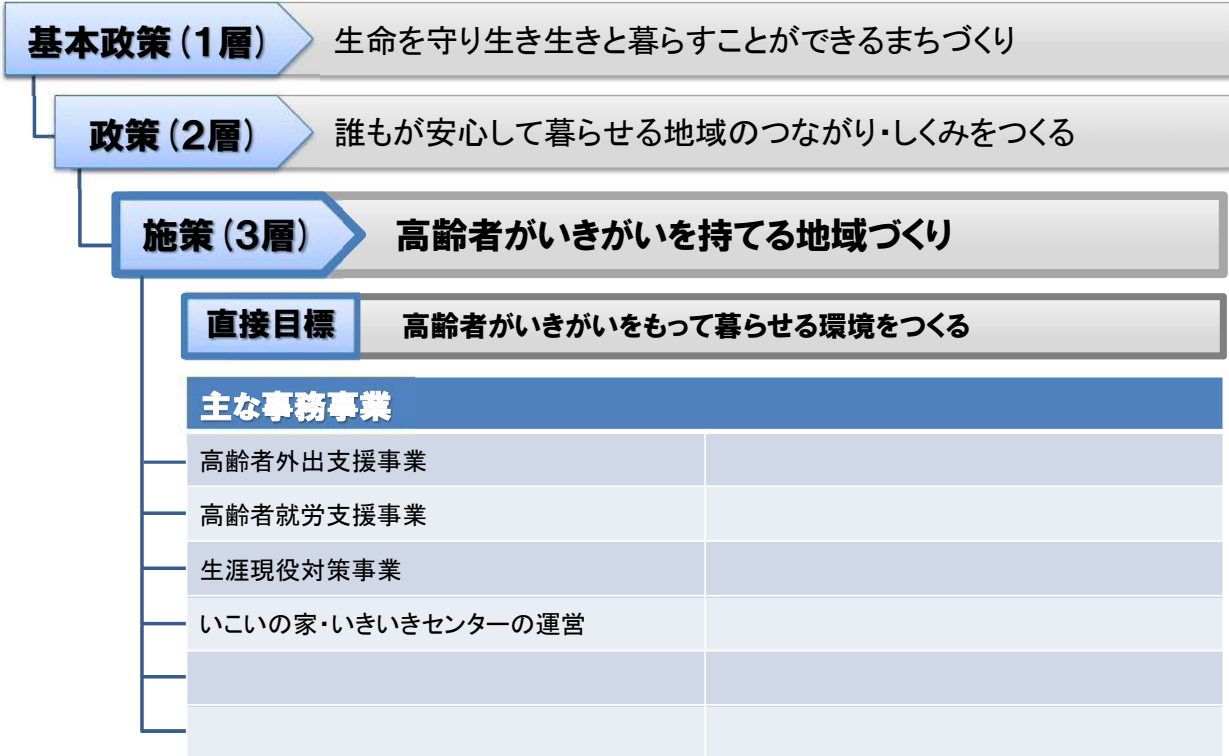




施策の概要

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ



実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

成果指標①		収入を伴う仕事をしている高齢者の割合			
算出方法	高齢者を対象とする調査(無作為抽出23,000人)において「収入が伴う仕事をしている」と回答した高齢者の割合				
指標の考え方	高齢者の就労が、生きがいにつながることから、高齢者の就労状況を把握することにより、高齢者の生きがいづくりに係る取組の成果を測ることができる。				
指標の目標値	26.7%(H25)	27.8%以上(H28)	32.5%以上(H31)	38.3%以上(H37)	
目標値の考え方	働く意欲のある高齢者は増加しているが、高齢化がますます進行する中、就労率は停滞傾向である。そのため、積極的な普及・啓発や環境整備等に努めることなどにより、計画策定時の値から着実に向上させる目標とする。				

成果指標②		シルバー人材センターを通じて、仕事に就いた高齢者の数			
算出方法	シルバー人材センターの登録者のうち、仕事に就いた人の数(年合計延べ人数)				
指標の考え方	高齢者の就労が、生きがいにつながることから、シルバー人材センターに登録し、仕事に就く高齢者の就労状況を把握することにより、高齢者の生きがいづくりに係る取組の成果を測ることができる。				
指標の目標値	2,453人(H25)	2,500人以上(H29)	2,550人以上(H33)	2,600人以上(H37)	
目標値の考え方	高齢者を取り巻く雇用状況が不安定である中、登録者数(会員数)と受注件数の増加への取組を推進することにより、仕事に就くことができる高齢者数を着実に増加させる目標とする。				



実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

成果指標③		ほぼ毎日外出している高齢者の割合			
算出方法	高齢者を対象とする調査(無作為抽出23,000人)において、「ほぼ毎日外出している」と回答した高齢者の割合				
指標の考え方	高齢者がほぼ毎日外出することにより、高齢者の健康づくりや、主体的な社会参加を促進する取組の成果を測ることができる。				
指標の目標値	48.1%(H25)	50.0%以上(H28)	52.5%以上(H31)	55.0%以上(H37)	
目標値の考え方	元気で活力のある高齢者が増え、外出する頻度も増加傾向である中、今後も社会参加の促進や、外出支援等を推進することで、高齢者の外出頻度を着実に増加させることを目標とする。				

成果指標④		高齢者向け施設(いきいきセンター)の利用実績			
算出方法	いきいきセンターの延べ利用者数(年間)				
指標の考え方	教養の向上やレクリエーション活動のほか、元気な高齢者のふれあいの場としての機能を担う「いきいきセンター」の利用実績の状況により、高齢者の主体的な社会参加に向けた取組の成果を測ることができる。				
指標の目標値	289,028人(H25)	29万人以上(H29)	29.1万人以上(H33)	29.2万人以上(H37)	
目標値の考え方	高齢者の多様な価値観が広がる中、高齢者向け施設の利用者数が減少する傾向があるが、比較的若い高齢者を取り込む施策や、多世代交流を進めることなどにより、社会参加を着実に増加させる目標とする。				

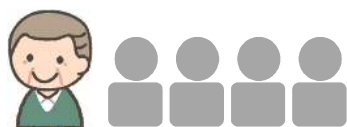


実施計画に位置付けた成果指標

成果指標⑤		生活に「はり」や「楽しみ」を感じている高齢者の割合			
算出方法	高齢者を対象とする調査(無作為抽出23,000人)において、生活に「はり」や「楽しみ」を“とても感じる”あるいは“まあ感じる”と回答した高齢者の割合				
指標の考え方	生活に「はり」や「楽しみ」を感じている割合が増えることにより、高齢者が生きがいを持って生活している環境づくりの取組の成果を測ることができる。				
指標の目標値	35.1%(H25)	36.0%以上(H28)	50.0%以上(H31)	55.0%以上(H37)	
目標値の考え方	高齢化がますます進行し、高齢者を取り巻く環境が変化するとともに、ニーズも多様化している状況の中、高齢者への施策の充実を図ることで、生きがいを持つ方を着実に増加させることを目標とする。				

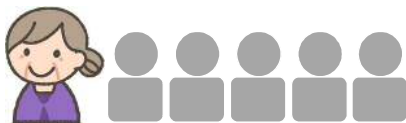


本市の高齢者の現状



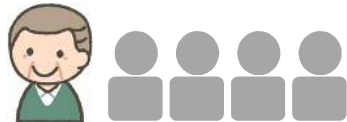
市の人口の**約5人に1人**が高齢者

(高齢者30.2万人/人口150.4万人)



市の高齢者の**約6人に1人**が要介護等認定者

(要介護・要支援認定者5.2万人/高齢者30.2万人)



市の高齢者の**約5人に1人**がひとり暮らし

(ひとり暮らし高齢者5.8万人/高齢者30.2万人)



市の高齢者の**約7人に1人**が認知症(推計)

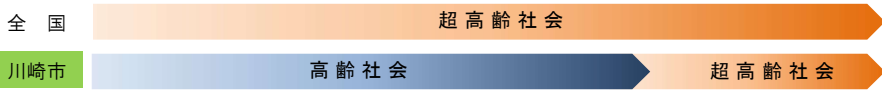
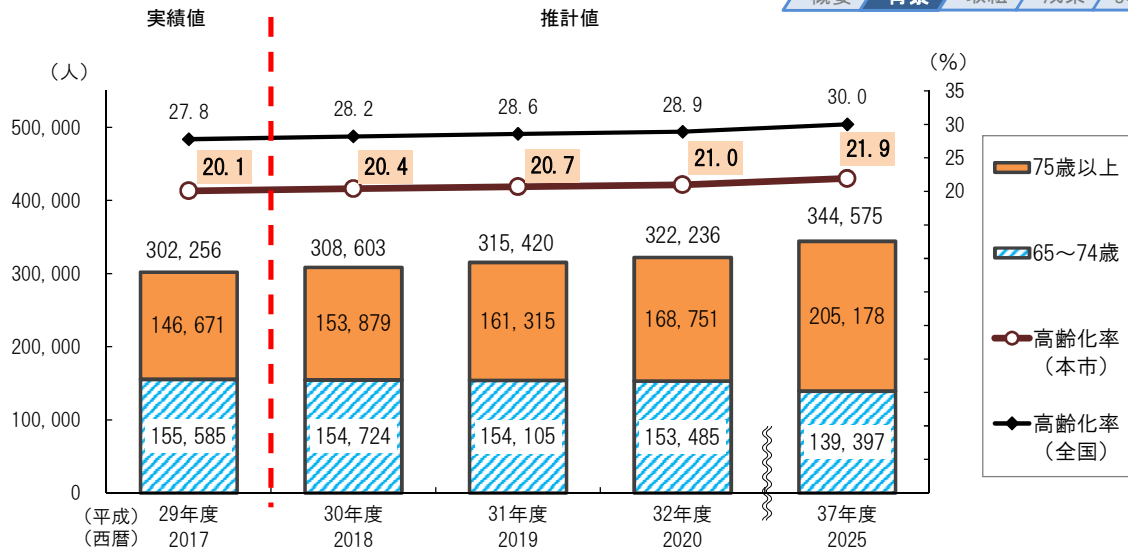
(認知症高齢者4.2万人/高齢者30.2万人)

- 高齢者人口は、平成29年10月時点で30万人を超え、市の人口の**約5人に1人**が高齢者となっています。
- 要介護・要支援認定者は、5万2千人を超え、市の高齢者の**約6人に1人**が要介護等認定者となっています。



本市の高齢者人口の推移

概要 背景 取組 成果 まとめ

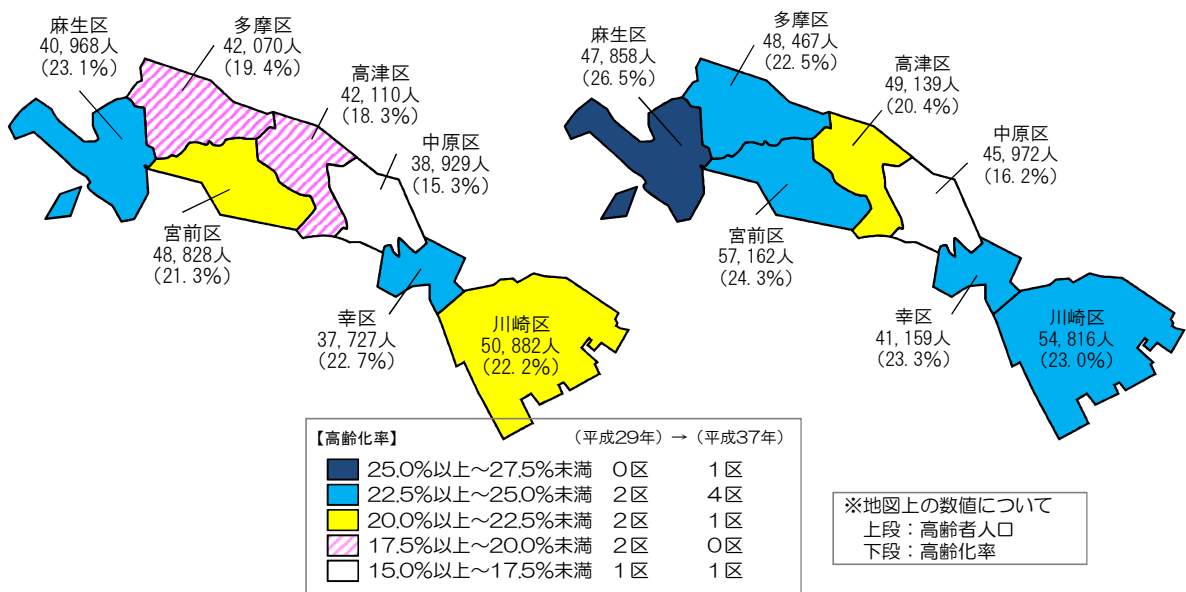


- 平成32年度には、高齢者人口は32万人を超え、高齢化率は21%に達する見込みです。
- 高齢化率が21%を超える社会は「超高齢社会」と定義され、本市も「超高齢社会」を迎えることになります。

行政区別に見た高齢化の状況

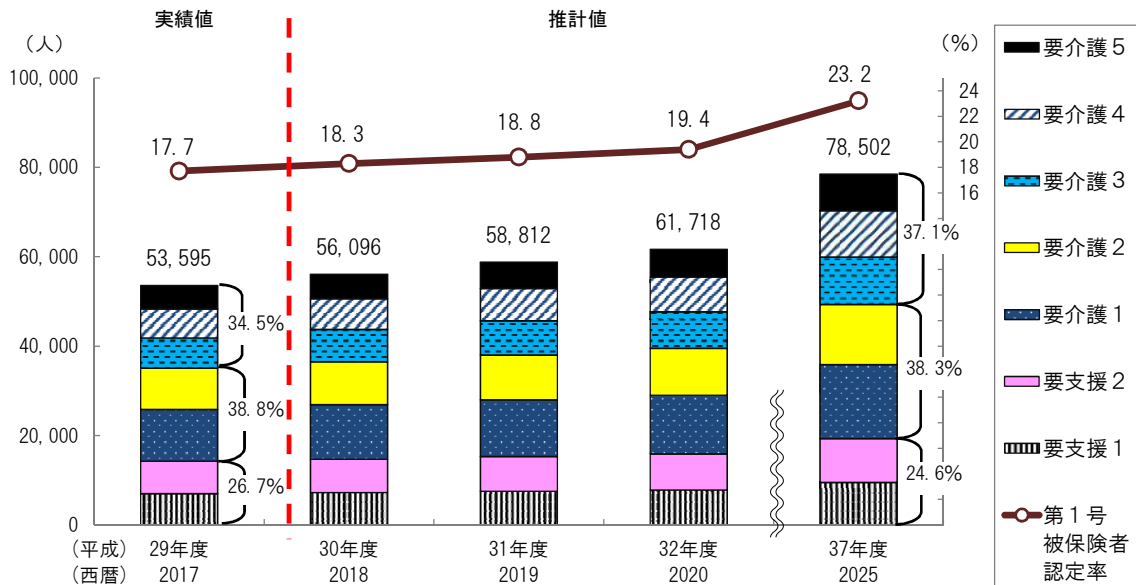
概要 背景 取組 成果 まとめ

- 平成29 (2017) 年10月
 - ▶ 川崎区、幸区、宮前区、麻生区で高齢化率が21%を超えています。
- 平成37 (2025) 年 (推計)
 - ▶ 宮前区、多摩区、麻生区の高齢化率が3ポイント以上も上昇し、高齢化が急速に進む見込みです。



本市の要介護・要支援認定者数の推移

概要 背景 取組 成果 まとめ



※要介護・要支援認定者数には、40歳以上64歳以下の医療保険加入の方（第2号被保険者）を含みます。
 ※平成30年度以降は、本市健康福祉局の推計です。

高齢者実態調査 “生活のはりや楽しみ”

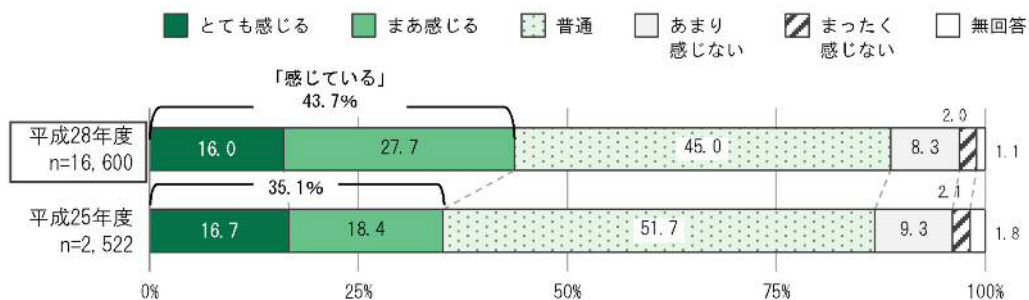
概要 背景 取組 成果 まとめ

- 平成28年度川崎市高齢者実態調査（以下「高齢者実態調査」といいます。）において、生活に「はりや楽しみ」を“とても感じる”あるいは“まあ感じる”と回答した高齢者の割合は、8.6ポイント増加しています。

【一般高齢者調査】

問 あなたは、現在の生活に「はりや楽しみ」を感じていますか（単一回答）。

▶生活にはりや楽しみを「感じている」と回答した人は8.6ポイント増加しています。



※「感じている」＝「とても感じる」＋「まあ感じる」

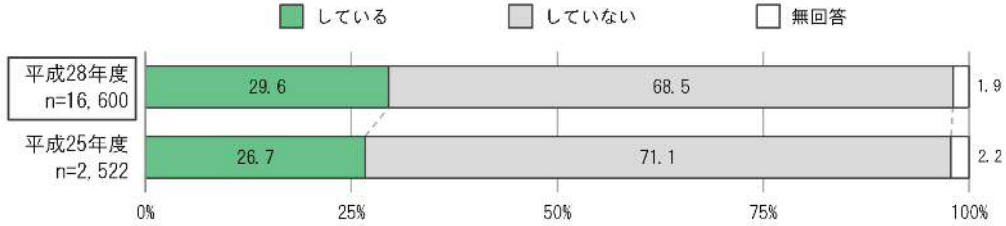
高齢者実態調査 “就労状況(1)”

- 高齢者実態調査において、3割近くの方が収入をとまなう仕事をしていると回答しています。

【一般高齢者調査】

問 あなたは現在、収入がともなう仕事をしていますか（単一回答）。

▶ 3割近くの方が収入をとまなう仕事をしています。

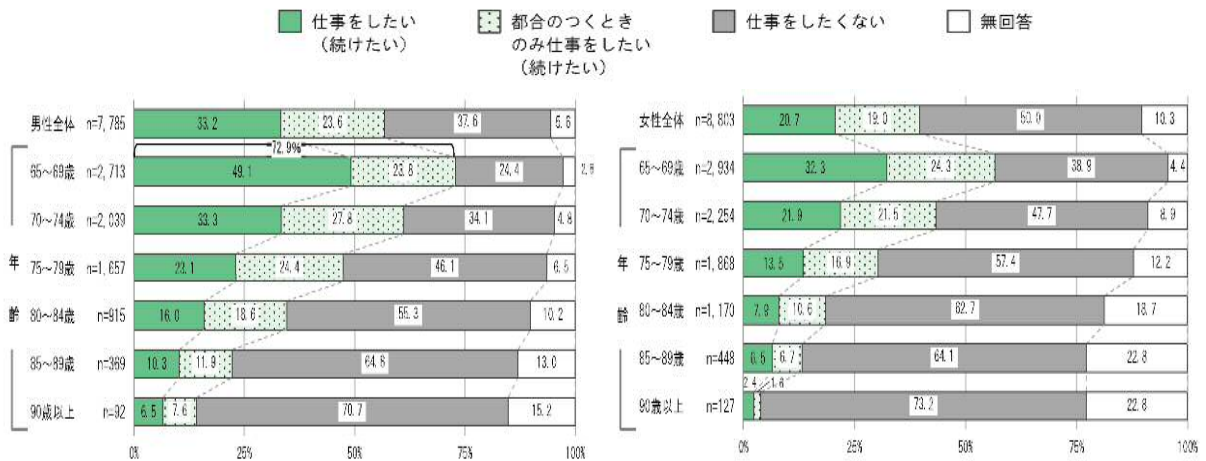


高齢者実態調査 “就労状況(2)”

- 高齢者実態調査において、65～69歳の男性は約4人に3人が「仕事をしたい(続けたい)」と回答しています。

問 あなたは、今後収入がともなう仕事をしたい(続けたい)と思いますか（単一回答）。

▶ 65～69歳の男性は約4人に3人が「仕事をしたい(続けたい)」と回答しています。



※ 「仕事をしたい(続けたい)」 = 「仕事をしたい(続けたい)」 + 「都合のつくときのみ仕事をしたい(続けたい)」

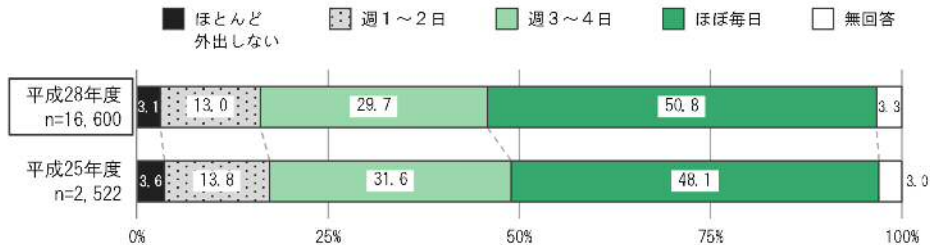
高齢者実態調査 “外出頻度”

- 高齢者実態調査において、半数以上の人々が「ほぼ毎日」外出していると回答しています。

【一般高齢者調査】

問 あなたは、1週間のうちどのくらい外出していますか（単一回答）。

▶ 半数以上の人々が「ほぼ毎日」外出しています。



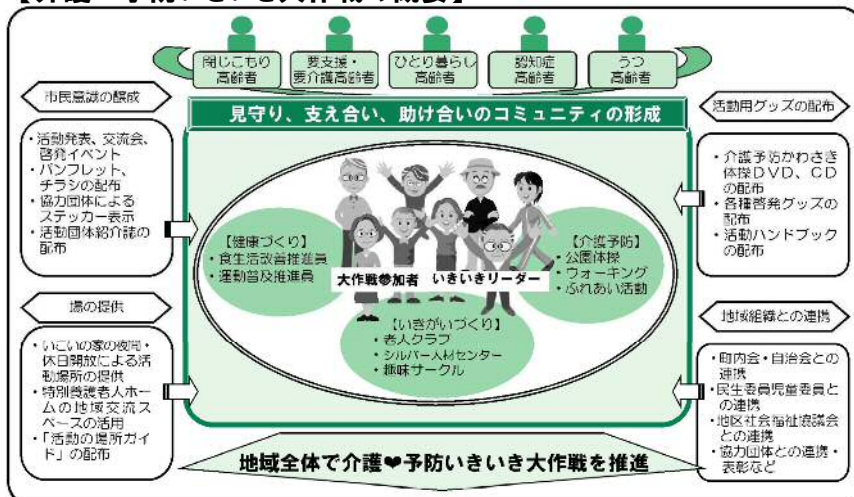
高齢化が進展する中、

- 高齢者がいきがいや健康づくりなど地域活動を主体的に行う環境づくりや居場所づくりが必要です。
- 働く意欲のある高齢者の就業機会の確保が必要です。
- 高齢者の社会参加の場づくりの支援が必要です。

介護♥予防いきいき大作戦の推進

- いきがい・健康づくりや介護予防など、高齢者が地域でいつまでも元気でいきいきと暮らせるための取組を「介護♥予防いきいき大作戦」と位置付けて、地域全体で進めています。
- これまで養成した、総勢542名の「いきいきリーダー」と連携し、自主的な活動を支援しながら、人づくり、活動支援、普及啓発を通じて高齢者の地域での活動を支援しています。

【介護♥予防いきいき大作戦の概要】



【長寿郎の活用】

介護♥予防いきいき大作戦を展開していく上で、マスクットキャラクターの「長寿郎」を活用し、普及・啓発を図っています。

頭部は川崎で発見された梨「長十郎」をモチーフにしています。「長十郎」は、病気に強く、日持ちのする品種といわれています。



いきがづくり支援

概要 背景 取組 成果 まとめ

● 老人クラブ育成事業

地域の活動として高齢者が主体的に集まる仲間づくりの場として、①教養の向上、②健康の増進、③レクリエーション、④社会活動などの老人クラブ活動を支援しています。

● 全国健康福祉祭(愛称「ねんりんピック」)への選手派遣

スポーツを通したいきがい・健康づくり、また社会参加を促進するために、シニアスポーツの展開を図るとともに、市内で行われる高齢者のスポーツ大会等のほか、スポーツや文化活動を通じた全国的な高齢者の交流の場である全国健康福祉祭等への参加を支援しています。

【老人クラブ育成事業】

持続可能な高齢者施策の基本は、地域住民の支え合いであり、老人クラブの活動強化は主要なテーマのひとつとなっています。元気な高齢者の知識と経験を活かしながら地域の活性化を図り、健全な老人クラブの発展をめざします。

- ・老人クラブ数 458クラブ
- ・友愛チーム数 396チーム

(いずれも平成29年度4月1日時点)

【全国健康福祉祭(愛称「ねんりんピック」)への選手派遣】

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに続く、2021年のねんりんピック神奈川大会に向けて、参加種目の拡大や競技人口の増加など、参加機運の醸成や裾野を拡大していく取組を検討します。

【全国健康福祉祭の予定】

- ・平成30(2018)年／第31回 富山県
- ・平成31(2019)年／第32回 和歌山県
- ・平成32(2020)年／第33回 岐阜県



- ・平成33(2021)年／第34回 神奈川県



就労支援

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 平成28年度高齢者実態調査の結果では、男性の5割以上、女性の約4割近くが「仕事をしたい(続けたい)」と回答していることから、本市では、高齢者がこれまで培ってきた経験、知識を活かして身近な地域で生き生きと活動できるよう、働く意欲のある高齢者の就業機会の確保に取り組んでいます。

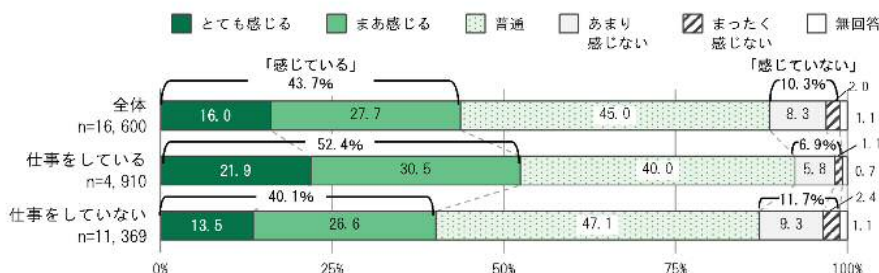
【高齢者就労支援事業(シルバー人材センター)】

定年後においても、元気に健康で自立した生活を送られている60歳以上の方が、いきがいを高めることなどを目的として、「シルバー人材センター」では、発注者からの求めに応じて臨時的・短期的又は軽易な業務の就業機会を提供しています。

「生涯現役社会」の実現に向けて、シルバー人材センターの認知度を向上させる取組を推進し、会員数の増大、就業率の向上、他の就労支援機関とのより一層の連携強化を図りながら、高齢者の多様な就業ニーズにマッチする「就労支援」への更なる充実を図ります。

問 あなたは、現在の生活に「はり」や「楽しみ」を感じていますか(単一回答)。

▶ 仕事をしている人ほど、生活にはりや楽しみを「感じている」割合が高くなっています。



資料: 平成28年度高齢者実態調査

活動支援

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 地域の活動団体に関する実態把握や、活動する際に利用できる場所の調査を実施するとともに、情報提供、資金援助、場の確保などにより、地域活動がより活発に行われるよう、活動支援を実施しています。

【①活動情報の提供】

●活動団体・場所実態把握調査事業及びシニア向け情報誌の発行

市内において、いきがい・健康づくり、介護予防などの活動を行っている団体を把握するための調査や、市民活動団体が介護予防等の取組を行う際に活動場所として利用できる市内の施設に関する調査を行い、地域における社会資源を市民や活動団体に情報提供を行っています。また、地域で活動しているシニア向け情報「楽笑」を発行しています。



【②活動資金の提供】

●ふれあい活動支援事業

地域の町内会館やいこいの家等で、高齢者向けに会食や配食、ミニデイサービスを行っている地域のボランティア団体等に対し、川崎市社会福祉協議会を通じて活動費の一部を助成しています。

●地域介護予防活動支援事業補助金

市内に活動拠点があり、要介護者、要支援者及び虚弱高齢者を対象とする通いの場を自主的に運営している地域の団体等に補助金を交付することで、地域の団体の立ち上げ支援を行っています。



活動支援

概要 背景 取組 成果 まとめ

【③活動場所の提供】

●いきいきセンターの運営(市内7か所)

高齢者の健康や生活など各種の相談に応じるとともに、教養の向上やレクリエーション活動を行う場として運営しています。

●いこいの家の運営(市内48か所)

地域の健康な高齢者のふれあいや、いきがいの場としての機能に加え、虚弱な高齢者を地域で支え合い、助け合っていくための福祉活動や介護予防の拠点機能を併せ持つ施設として運営しています。また、既存施設であるこども文化センターとの連携により、多世代交流・地域交流の取組を促進しています。



いこいの家
(写真は、子母口いこいの家(2階こども文化センターとの合築館))



老人福祉センター
(写真は、多摩老人福祉センター)



外出支援

● 高齢者外出支援乗車事業

満70歳以上の方に、社会活動への参加促進を目的として、市内を運行する路線バスを利用した外出を支援しています。

【高齢者外出支援乗車事業】

<利用方法>

- ①コイン方式:バス乗車時に証明書を提示することで、大人運賃の半額で乗車可能となります。
- ②フリーパス方式:バス営業所等で証明書を提示し、1か月あたり1,000円の負担で高齢者フリーパスを購入すると、期間中は何度でも乗車可能となります。

<利用実態調査>

高齢者人口の急増等の制度開始以降の社会状況の変化に対応するため、利用実態調査を実施しています。

- ・コイン式:平成29(2017)年度に全路線、全ダイヤについて実施
- ・フリーパス式:調査方法や実施時期を検討中

⇒利用実態調査の結果等を踏まえた持続可能な運営に向けた制度のあり方について検討していきます。

成果指標①の達成状況

①収入を伴う仕事をしている高齢者の割合

- 収入を伴う仕事をしている高齢者の割合は、生涯現役社会の実現に向けて、計画策定時の値から漸増させる目標としており、平成28年度の実績については、**計画策定時から2.9ポイント上がり、目標を達成しました。**

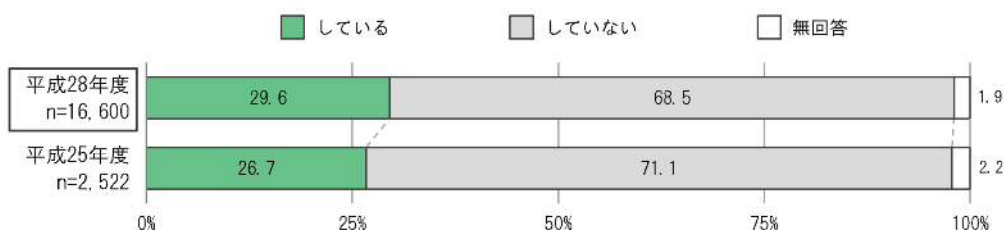
	H28 <small>※第1期 目標年次</small>
目標	27.8%
実績	29.6%
現状値	26.7% (H25)

(再掲)

【一般高齢者調査】

問 あなたは現在、収入がともなう仕事をしていますか(単一回答)。

▶ 3割近くの人が収入をともなう仕事をしています。



成果指標②の達成状況(目標未達成)

概要 背景 取組 成果 まとめ

②シルバー人材センターを通じて、仕事に就いた高齢者の数

- シルバー人材センターを通じて、仕事に就いた高齢者の数については、計画策定時の値から漸増させる目標としておりましたが、平成28年度の実績については、**目標を達成できませんでした。**
- 定年延長や再雇用の延長等の経済・社会情勢の変化に伴い収入を伴う仕事をしている高齢者の割合は増える一方で、シルバー人材センターに登録して仕事に就く高齢者数が減少したものと考えられます。

	H29
目標	2,500人
実績	2,348人
現状値	2,453人 (H25)

【分析】

H29年度の調査によると、新規会員の入会動機の上位3位は、「健康維持・増進」が33.2%、「生きがい、社会参加」が30.2%、「時間的余裕」が19.2%となっております。

なお、H27年度に上位3位であった「経済的理由」の割合が、H27年度23.0% → H28年度18.8% → H29年度16.3%と年々後退しており、経済的な理由の高齢者は、雇用環境が改善したこと等により、シルバー人材センターよりも、高収入の得られるハローワーク等、他の就労相談を利用して就業の場を探しているものと推測されます。

成果指標③及び⑤の達成状況

概要 背景 取組 成果 まとめ

③ほぼ毎日外出している高齢者の割合

- ほぼ毎日外出している高齢者の割合は、元気で活力のある高齢者が増え、外出する頻度も増加傾向である中、計画策定時の値から漸増させる目標としており、平成28年度の実績については、**計画策定時から2.7ポイント上がり、目標を達成しました。**

	H28 <small>※第1期 目標年次</small>
目標	50.0%
実績	50.8%
現状値	48.1% (H25)

⑤生活に「はり」や「楽しみ」を感じている高齢者の割合

- 生活に「はり」や「楽しみ」を感じている高齢者の割合は、計画策定時の値から漸増させる目標としていたところ、平成28年度の実績については、**計画策定時から8.6ポイントの大幅な増となり、目標を達成しました。**高齢者の就労状況の改善等も含め、高齢者の社会参加が促進されていることが要因のひとつと考えられます。

	H28 <small>※第1期 目標年次</small>
目標	36.0%
実績	43.7%
現状値	35.1% (H25)

成果指標④の達成状況(目標未達成)

概要 背景 取組 成果 まとめ

④高齢者向け施設(いきいきセンター)の利用実績

- 高齢者向け施設(いきいきセンター)の利用者数については、比較的若い高齢者を取り込む施策や、多世代交流を進めることなどにより、計画策定時の値から微増させる目標としておりましたが、**平成28年度の実績については、目標を達成できませんでした。**
- 一方、同じく高齢者向け施設である、**いこいの家の利用者数は、増加傾向にあります。**
- また、いきいきセンターでは、今後、地域に戻ってくる団塊世代の利用を促進するため、「スマホ・タブレット講座」「そば打ち講座」「男のための料理教室」などの教養講座の充実を図っています。
- 引き続き、両施設とも、**地域に根ざした施設として、団塊世代の利用促進を図り、利用者とも連携しながら魅力ある施設運営に努め、利用者の増加を図ります。**

	H29
目標	29万人
実績	28.2万人
現状値	28.9万人(H25)

【参考・いこいの家の利用者数】

いこいの家(市内48か所)	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度
延べ利用者数	580,162人	587,392人

その他成果(定性的な成果)

概要 背景 取組 成果 まとめ

多世代交流の推進

～「老人いこいの家」及び「こども文化センター」における連携モデル事業～

- 本市では、**子どもから高齢者まで全ての方を対象とし、誰もが住み慣れた地域や自らが望む場で、安心して暮らし続けることができる地域の実現を目指した「地域包括ケアシステム」の構築に取り組んでいます。**
- 「地域包括ケアシステム」における「地域社会全体で見守り、支えるしくみ」の構築を進めるには、**多世代が互いに声掛けや気軽な相談ができるような関係づくりを進める必要があります。**
- このような現状を踏まえ、乳幼児、青少年、成人といった幅広い年代が利用する**こども文化センター**と、60歳以上の方が利用する**いこいの家**において、連携を図ることで、**地域の中であらゆる世代が交流し、顔見知りの関係に繋がるよう、平成27年度から両施設の連携事業を開始しています。**

老人いこいの家

60歳以上の高齢者を対象に、健康増進や介護予防、いきがづくりの取組を実施。



こども文化センター

児童や児童福祉に関する事業を行う者などを対象に、児童の健全育成や、地域組織活動の育成を実施。



【連携モデル事業】

平成27年度から、老人いこいの家の指定管理事業として実施。イベントの共同実施や施設の相互利用などを、平成28年度は市内6か所、29年度は13か所で実施中。

施策の達成状況

施策の達成状況

B 一定の進捗があった
(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)

理由

- 施策に掲げた成果指標については、一部を除き、目標値を達成しているため、施策の目標達成に向けて一定の進捗がありました。
- 「シルバー人材センターを通じて、仕事に就いた高齢者の数」については、目標達成に至りませんでした。しかし、「収入を伴う仕事をしている高齢者の割合」は増えていることから、定年延長等、経済・社会情勢の変化に伴い高齢者の雇用環境の改善が進み、高齢者の多様な就労機会の確保が一定程度進んでいるものと考えられます。
- 「高齢者向け施設(いきいきセンター)の利用実績」については、目標達成に至りませんでした。しかし、いきいきの家の利用者数は増えていることから、高齢者の地域活動の場を提供し、社会参加の充実を図るという点において、一定の成果があったものと考えます。

【施策の達成状況区分】 A 順調に推移(目標を達成)、B 一定の進捗があった(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)
C 進捗が遅れた(現状を下回るものが多くあった)、D 進捗は大幅に遅れた(現状を大幅に下回った)

施策の今後の方向性

今後の方向性

II 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)

理由

- 施策に掲げた成果指標については、一部を除き、目標値を達成しているため、施策を構成している事務事業の取組が順調に推移したことによるものと考えます。
- 一方、目標未達成の「シルバー人材センターを通じて、仕事に就いた高齢者の数」の指標に関連する部分については、多くの高齢者が就労を希望している中、実際には約3割の就労率に留まっており、必ずしも就労できていないという課題があることから、シルバー人材センターの会員数の増加への取組を推進し、高齢者の多様な就業機会の確保を図ります。
- また、目標未達成の「高齢者向け施設(いきいきセンター)の利用実績」の指標に関連する部分については、更なる多世代交流の取組を進めながら、高齢者の社会参加の場づくりを支援するとともに、地域のつながりや仕組みづくりを推進します。

【今後の方向性区分】 I 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)、II 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)
III あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい)、IV 事業構成に問題がある(抜本的な見直し等が必要である)



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市